

辰野町議会第9回議会報告会概要

実施期日 平成28年5月27日 午後6時30分 開会
実施場所 辰野町役場第6会議室
出席者 町民45名 議員14名 合計57名
司会進行 宇治議会運営委員長

全 体 会

次 第

- 1、 開会挨拶
成瀬副議長（実行委員長）
- 2、 主催者挨拶
宮下議長
- 3、 議会活動報告 第8回報告会（平成27年11月13日）以降
 - 1) 総務産業常任委員会 定例会審査状況・活動報告
報告者 根橋総務産業委員長
 - 2) 福祉教育常任委員会 定例会審査状況・活動報告
報告者 堀内福祉教育委員長
 - 3) 議会広報委員会 活動報告
報告者 垣内広報委員長
- 4、 報告に関する質疑
※この後、2つの分科会方式のため出席以外の分科会の件についてもこの機会に聞ける様に質問を許可した。
- 5、 分科会での意見交換内容
- 6、 閉会

議会活動報告（全体会）に対する質問・意見・要望等

「意見」 1

請願・陳情に対する要望。委員会にて審査されるものと文書配布されるものとの様に分けられているかわからないが、きちっと委員会にて審査案件として扱ってほしい。

(答弁の必要なし)

「意見」 2

J A上伊那では食育・花育事業の取り組みの一環として、6月15日にアルストロメリアを町内小学校に提供し、農業を理解し好きになっていただく事業に取り組む。

そのような取り組みをする立場から要望します。川島小学校問題も新山小学校の様に移住とセットで子どもの教育を考え進めてはどうか。川島には、豊かな自然や花もあり、どろん田バレー等良き取り組みや材料が多いので地方創生で取り組みれば川島小も復活し、地域の活性化が図れ、期待が持てると考える。

(答弁の必要なし)

福祉教育委員会で7月にファミリーサポート事業の視察に行く話があったが、狙いや内容を教えて欲しい。

・堀内委員長

地域興しには、その仕掛けが大切でありリーダーが重要な要素となっている。今回研修先の羽咋市のファミリーサポートについては、従来の支援方法以外に、子育て中の親御さんがどの様に結びついて、どの様な援助を求めこの事業に期待しているかを研修したい。ファミリーサポートについては辰野町でも取り組みができるように勉強もしていきたい。

「意見」 3

町民会館の使用料見直しの意見が出ているようだが、この会館は格安で、施設のレベルも高く、利用者も多く長野県の文化会館の拠点ともなりつつある。町民にも充分貢献しているので、見直しも必要だが極力少なくするよう努力して欲しい。

(答弁の必要なし)

総務産業常任委員会 分科会

《テーマ》 地域交通のあり方について

趣 旨	交通弱者、買い物弱者、過疎地域居住者等の足の確保を中心に
時 間	午後7時20分～午後8時20分
場 所	辰野町役場第6会議室
出席者	町民21名 議員7名 合計28名
進 行	岩田議員

次 第

- 1、開会のことば
岩田議員
- 2、テーマ・趣旨についての課題提起
根橋委員長
- 3、意見交換会
- 4、閉会のことば
宇治議員

意見交換会

課題提起 (根橋委員長)

高齢者の移動手段の確保として町は、デマンド型乗合タクシー、福祉タクシー券、町営バスを実施している。費用の面では福祉タクシー券を助成している。また遠隔地の子供向けに園児バス、スクールバスを実施している。これらにはまだ改善すべき課題が残っている。

《意見1》

デマンドタクシーの利用者が少ないと感じる。「停留所より少し先まで行ってほしい」との声がある

《意見2》

当日予約ができないのが不便。月曜日に乗るのに金曜日に予約しなければならない。土日でも予約できるよう役場以外で予約受付できるようにしてほしい。また、停留所の配置見直しをしてほしい。

回 答

現状では当日予約ができない状態。民間タクシー会社の業務と競合してしまうことを避けている面もある。ご意見は町に伝えていく。

《意見3》

町営バスの利用者も減少していると感じる。毎日通勤に使っていたが定年退職で使わなくなった方もいる。また、中学のスクールバスで1人2人しか乗っていないときがある。理由は部活動の朝練・夕練があるため親が送迎しているとのこと。

回 答

それについて教育委員会と話し合っていきたい。

《意見4》

町営バス飯沼線で小野診療所へ行くのだが、停留所がないため小野駅まで行ってしまう。小野診療所に停車できないか。

回 答

県・国との関係で診療所の中で停車できない理由があるようだが、再検討を要望していきたい。

《意見5》

園児バス、スクールバスの所有者はどこか。今何台あるか。と言うのは、バスがいつもガラガラだ。早朝保育・延長保育など保護者の都合で利用者が減っているようだ。

回 答

バスは町の所有で、運営は民間委託している。利用者の減少については、町も問題意識を持っているようだ。

《意見6》

「あかり」での活動経験から、移動手段に苦勞をしている人を多く見ている。そこで「自家用有償旅客運送に関する法律」について研究し始めた。町の社会福祉協議会や保健福祉課へも相談に行ったが前向きの回答が得られない。こちらの委員会も一緒になって検討していただきたい。

回 答

福祉教育委員会とも連携しながら町・県と協議していきたい。

《意見7》

地域公共交通の利用者が少ないと実感しているが、利用者がどこに不便を感じているのか実態調査が必要だ。そしてその対策に掛かる費用がどのくらいか資料提供を望む。

《意見8》

利用者が公共交通を使う目的を把握する必要がある。また、移動手段に困っている住民には各種手続きに役場に来てもらうのではなく、職員が出かけるサービスを望む。

《意見9》

デマンドタクシー利用者を集めて、意見を聞く機会を設けたらどうか。

回 答

町営バスの利用者の費用負担割合は20%ほどで、残りは補助金すなわち国税で賄っている実態がある。また、高齢者が増えているのに利用者が減っている。実態について原因把握が必要である。

司 会

ほかに意見はないか。まだ発言のない議員はどうか。

議 員

J Rの利用者を増やして町の活性化に役立たせたい。駅周辺の住民はJ R利用を、遠い住民はデマンドタクシーを並行して推進すればよい。

議 員

移動スーパー「とくし丸」や他のスーパーの配達便などが充実するとよい。こちらにも来てほしいなどの要望があれば町や業者に伝えていく。

議 員

今日お聞きした内容を考慮し、利用者の利便性が向上する要望を町にしていきたい。

福祉教育常任委員会 分科会

《テーマ》 地域医療について

趣 旨	辰野病院のあり方、第一・川島診療所等について
時 間	午後7時20分～午後8時00分
場 所	辰野町役場第2会議室
出席者	町民24名 議員7名 合計31名
進 行	篠平議員

次 第

- 1、開会のことば
篠平議員
- 2、挨拶
堀内委員長
- 2、テーマの趣旨、少子化の実態説明
垣内副委員長
- 3、意見交換会
- 4、閉会のことば
成瀬議員

意見交換会

課題提起（堀内委員長）

委員会として、2ヶ年間の取り組みを報告（教育長との懇談会開催等）町検討委員会立ち上げに繋がった。人口減少化が急速に進行しており、今後の町の教育の進め方、保育園、小学校の配置等急速に話題化してきている。

就学状況（垣内副委員長）

5月1現在児童数、学校別、18才未満学校別実態報告

◆幼稚園・保育園関係

《意見1》

ほとんどの子供が進学する高校は無償化されている。保育園もすべての子供が通園していることをみると保育園も無料化できないか。

小野保育園の耐震化工事の話があるが、両小野小学校は耐震化も済み、また教室も沢山空いている、その空き教室を利用して保育を実施できたら新たに大きなお金を掛けずにすむと思う。

回 答

保育料については、所得に応じ決定されている。6月議会の議案にあるが4月より保育料については認定世帯により、第2子第3子に対しては半額、無料の幅が広がっている。ただし無料化が進むと財政に負荷がかかることも考えられるが、少子化対策、子育て支援のことから、これらの意見を受け入れながら町に提言していきたい。

《意見2》

当幼稚園は70人が通園している。とてもいい環境であるが町の中央にあり、交通混雑や、施設の老朽化が進行しているので、移転とか、建て直しを考える時期かと考えるが、町の支援を考えて欲しい。

回 答

理事者と相談しながら、まちづくりの核となる施設でもあるので、今後充分に考えていく必要があると思う。

《意見3》

園の駐車場が狭く行き違いも厳しいので広い駐車場がほしい。
第3子の保育料の無料化が実現したら、3人目を作りたい。

回 答

東部保育園の駐車場が広くはないことは承知しているので、町に要望、意見は伝えていきたい。

◆小学校関係

《意見1》

町へ要望書を提出した。子どもを通学させている親は川島小学校を存続させたいと思っている。しかし、未就学児の保護者は正反対の意見でいる。なぜなら児童、保護者がどのような活動をしているか知らないからだと思う。そのために未就学児の保護者との意見交換、ふれあいの場を持ちたいので協力をお願いしたい。特認校の制度について保育園を廻るなど説明をしているが広まらないので協力をお願いしたい。他校とのふれあいのための交歓会（スポーツなど）を実施できたら良いと思う。

川島小に地区外から通学する子供のために車を1台配備して欲しい。クラブ活動で子どもの帰宅がバラバラ、定時バス待ちきれない。通学している児童の足として使いたい。

回 答

保護者、未就学児童の保護者との懇談会が必要だと思う。いろんな意見を聞きながら方向が作られていけば良いと思う。

《意見2》

小中学校のあり方を考えることが、少子化に伴う合理化を考えることにイコールにならないでほしい。町内5つの小学校があり、それぞれ特徴をもって特色在る活動を展開している。もっと地域、学校、保護者が教育やかかわり方について、検討を深めていく必要性を痛感している。

回 答

子ども達の将来を考える事を主眼に考えることが大切で、そのための地域や学校であってほしい。地域の子供たちがそこに住んでいける体系をつくるのが大切であると思われる。

川島小が特に話題に上っているが、ほかの小学校も近い将来児童数の減少でどうなっていくかわからない。地域だけでなく皆で考えていく必要がある。町内の小学校は30人規模学級で編成されているが、統合により基準に当てはめると2クラスが1クラスになることもありうる。